

防災特集 災害に備える

毎年7月から10月ごろにかけては、集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などが発生するおそれがあります。近年では、平成27年9月の関東・東北豪雨（台風18号などによる大雨）や、令和元年10月の台風19号などが市内にも被害をもたらしました。

また、今年3月には東日本大震災から10年を迎えましたが、いつ再び大規模な地震が起こるかわかりません。

「もしも」の時は突然やってきます。命を守るためにできる備えを始めましょう。



▲平成27年に発生した関東・東北豪雨により氾濫した恋瀬川

警戒レベル4 5月20日～避難情報に関するガイドラインが改定されました
避難指示で必ず避難 避難勧告は廃止

警戒レベル	新たな 避難情報・避難行動		これまでの 避難情報
石岡市が発令	5	緊急安全確保 命の危険 直ちに安全確保！	災害発生情報
	4	避難指示 危険な場所から全員避難	・避難指示（緊急） ・避難勧告
	3	高齢者等避難 危険な場所から高齢者などは避難 その他の人は避難準備	避難準備・ 高齢者等避難開始
気象庁が発表	2	大雨・洪水・高潮注意報 避難に備え、避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報
	1	早期注意情報 災害への心構えを高める	早期注意情報

「避難」のために大切なことは？

避難所へ行くことだけが「避難」ではありません 安全な場所を確認しましょう

「避難」とは「難」を「避」けること。自宅などでの安全確保が可能な人は、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ観点からも、必ずしも避難所に行く必要はありません。

自宅での在宅避難、安全な親せき・友人宅への避難、避難所の駐車場などでの車中泊、ホテルなどの宿泊施設も避難先の選択肢となります。自分ができる安全確保を確認し、「分散避難」を検討してみましょう。

自宅周辺の災害リスクを確認しましょう

石岡市ハザードマップ▶



市が作成するハザードマップには、浸水するリスクがある地域を示すものや、土砂災害のおそれがある地域を示すものがあります。自宅がある場所に色が塗られていたら、浸水や土砂による災害の危険性があります。

分散避難の例

避難する時は、感染症対策として、事前の検温やマスクの着用を忘れずに！



学校・公民館
などの避難所

一覧はこちら▼



自宅

自宅が安全な場合
「在宅避難」



安全な親せき
・友人宅



ホテルなどの
宿泊施設



安全な場所
での車中泊

避難所で車中泊をする場合は、必要な支援を受けられるように、必ず避難所の職員にお知らせください。

備蓄品・非常持ち出し品を準備しましょう

□衛生用品



マスク



消毒液



体温計

各自で
感染症対策を
忘れずに！



※以下は参考です

□食料品

飲料水、乾パン・クラッカーなど、レトルト食品、缶詰、【乳児用】粉ミルク・哺乳ビン

□医薬品

救急医薬品、常備薬、生理用品

□貴重品

現金、預金通帳、印鑑、健康保険証、身分証明書（免許証など）

□生活用品

マッチ・ライター、ティッシュ、ゴミ袋、衣服、タオル、寝袋、雨具、紙おむつ

□避難用品

懐中電灯、ラジオ、電池、携帯用充電器、防災頭巾・ヘルメット、軍手

あなたの避難、いつ、何から始めますか？

マイ・タイムライン を作ろう！

以下の例を参考に「自分の避難」を考えてみましょう。

マイ・タイムラインとは？

個々に作成する、災害時の行動計画です。大規模な台風などから自分の身を守るためには、事前に取りるべき行動をあらかじめ作っておくことが、いざというときの避難に役立ちます。

備えまでの時間	行政から 発信される情報	主な備え（例）
5日前 ↓ 3日前	台風予報 台風の今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の情報を調べ始める ・天気予報を確認する ・家族の予定を調べておく ・どこに避難するかを確認する ・車にガソリンを給油しておく ・体温を測り、健康状態を確認する
1日前	大雨注意報 洪水注意報	<ul style="list-style-type: none"> ・避難時に持っていく物を準備する ・※マスク・アルコール消毒液・体温計などの衛生用品を忘れない
8時間前	大雨警報 洪水警報 暴風警報	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水位を調べる ・携帯電話の充電をする ・体温を測り、健康状態を確認する ・動きやすい服装に着替える
5時間前	【警戒レベル3】 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ・離れて暮らす両親や、高齢の知人へ避難を促す ・避難所の開設状況を確認する
3時間前	【警戒レベル4】 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な場所へ移動を始める
災害発生	【警戒レベル5】 緊急安全確保	避難完了

台風が最も接近するのはいつかをいち早く確認し、余裕をもって備えを始めましょう。

感染症予防のため、体調は早めに確認し、必要に応じて医師などに相談しましょう。

河川（恋瀬川）の様子は市ホームページで確認できます▶



【警戒レベル3】では高齢者やその支援者が避難する段階です。身の回りに該当する人がいれば、積極的に声をかけましょう。

災害時の情報収集

緊急時は、避難所や被害状況などの情報収集が必要不可欠です。また、情報が得られるだけで安心感にもつながります。情報収集の方法を確認し、災害に備えましょう。

▶防災ラジオ

申請がお済みでない人は、本庁防災危機管理課まで
Tel 23-7284



▲市防災 HP



▲メルマガ



▲Twitter



▲Facebook

「自分たちの地域は自分たちで守る」

自主防災組織で 災害に備えましょう

災害が発生した時、被害を最小限に抑えるためには「自助」「共助」「公助」の3つの要素がうまく機能することが重要だと言われています。

「自助」は、日頃から災害に備えることや、災害時に事前に避難することなど、1人1人が自分の身を守る行動をすること。

「共助」は、地域の人たちで消火活動や救護活動を行うなど、周りの人や身近な人と助け合うこと。

そして「公助」は、行政や消防、警察などによる救助・救援などをいいます。しかし、大規模災害時に、公的機関のみで被災者の救助や消火活動にあたることは限界があります。そのため「自助」「共助」による地域防災の力、すなわち自主防災組織が必要不可欠なのです。



●活動はできることから！

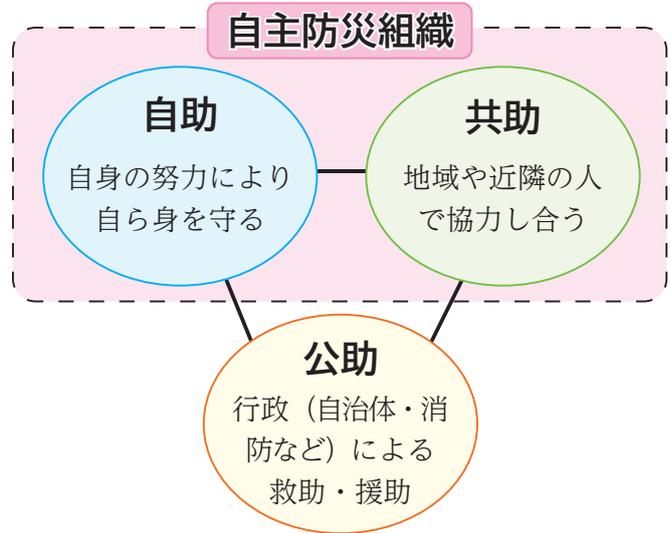
平常時

地域内の安全点検、防災訓練、防災知識の普及や啓発など

災害時

初期消火、救出・救助、避難誘導、情報の収集・伝達など

●災害対策の3要素



自主防災組織での活動について、お話を伺いました



なかこう
仲郷地区自主防災隊組織

会長 坂本 静しずかさん



関川の仲郷地区自主防災隊組織は、市の奨励によって平成21年に結成。坂本さんは、平成27年から会長を務めています。

—— 活動内容について

市や消防の協力のもと、毎年活動をしています。過去には、炊き出しや避難訓練のほか、専門の施設に行って暴風雨を体験したり、起震車を呼んで大規模な地震を体験したりしました。昨年は密を避けるため防災ヘルメットを配布。今年も地域の防災意識を高めるための活動をしたいと思っています。

—— 防災で大切にしていること

私は長くラグビーをやっているため、今もラグビー精神である『一人はみんなのために、みんなは一人のために』を信念にしています。自助と共助をモットーに、自分たちで生命、財産を守るようにすることが大事ですね。

自主防災組織の設立・運営に補助金を交付します

補助金額

設立事業

設立当初1回限りで1団体5万円を上限

運営事業

補助対象経費の2分の1以内で3万円を上限

資機材等整備事業

補助対象経費の2分の1以内で15万円を上限

※資機材等整備事業につ

いては、組織の設立届を

提出しており、設立から10年以上経過かつ直近3年度において毎年度防災訓練を実施した組織が対象となります。また、すべての事業で事前の申請が必要になりますので、ご注意ください。

☎防災危機管理課 TEL 23-7284

